

木蓮

けりをつける

年末までには「けりをつける」というときの「けり」には、物事の終わり、決着といった意味があります。たとえば「小倉百人一首」末尾の順徳院の歌

「ももしきや古き軒端のしのぶにもなをあまりある昔なりけり」の「けり」は、過去の事柄について回想したり、詠嘆したりする場合の助動詞です。式亭三馬の滑稽本『浮世風呂』に「けり子」という名の登場人物がいます。これらをもてわかるように、和歌の末尾に多用されたことから「けりをつける」という慣用句が生まれました。また「けりをつける」に近い表現の「きりをつける」は、区切り・切れ目を意味する動詞「切る」の名詞形です。芸能用語としての「切」は一曲・一段・一幕などの最終部をさします。1日の最後の演目をいうことも多く、能楽では「切能」、歌舞伎では「切狂言」「大切り」などと呼ばれてきました。「けりをつける」は文芸、「きりをつける」は芸能と深い関係があると覚えておくとよいでしょう。

新校舎の工事が着々と進められています。図書館では移転作業をきちんと「けりをつけ」新しいスタートの準備をする予定です。みなさんも今年1年を振り返り新しい年の準備をしましょう。

図書館の中庭に美しい花を咲かせる木蓮は、地球上最古の花木といわれています。歴史ある金商高校に学ぶみなさんが、心も知識も大きく美しく成長することを願って、図書館だより「木蓮(もくれん)」をお届けします。

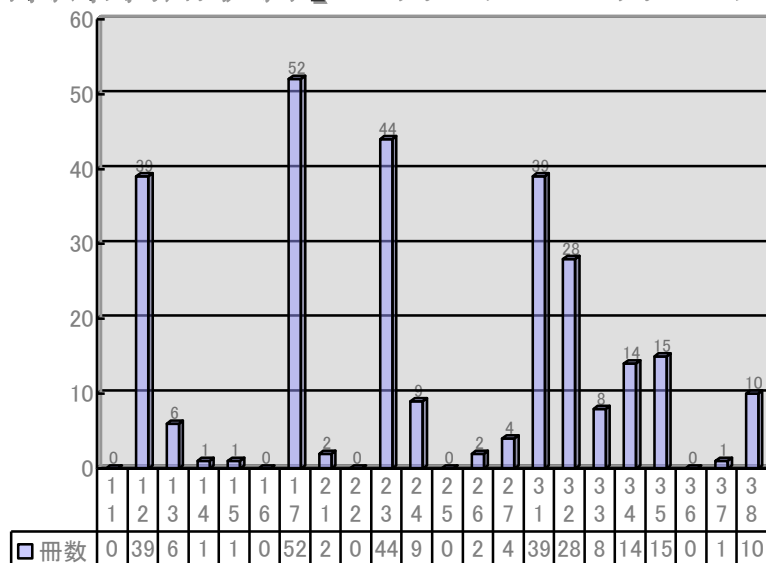
新着雑誌

『文藝春秋』2013年の論点100



●2013年の日本を待ち受ける100の課題に105の知性が挑戦します。

図書館利用統計【10月1日~11月30日】



今回の図書貸し出し総数は275冊でした。開館日数は40日で、1日平均にすると約6.8冊の貸し出しです。学年別では3年生が115冊、2年生が61冊で、1年生は99冊でした。入館者の総数は3,736人で、1日平均約93人の利用でした。図書館での授業は52時間ありました。進路決定後の3年生に貸し出しが多くありました。年末年始は、ゆっくり時間が取れるチャンスです。大掃除を済ませたら読書で自分磨きをしましょう！

図書委員がすすめる

読んで得するテッパン本

『悪の教典』 貴志祐介著

この本は主人公の表の顔と裏の顔の差が怖くスリリングな展開です。今年漫画化も映画化もされた作品です。不良生徒やモンスターペアレントなどの多くの問題を抱える東京都町田市の私立高校につとめる蓮実聖司は、有能で人気者だが裏では自分に都合の悪い人間を次々と殺害していくサイコパスであり、一部の生徒から疑われ始めます。文化祭の前日、蓮実は邪魔になった女生徒を自殺にみせかけて始末しようとするが、手順が狂い殺人の嫌疑がかりそうになります。それを隠すため出し物の準備のため校舎に泊り込んでいた生徒全員を同僚の仕業に見せかけて散弾銃で皆殺しにしようと大惨劇が始まります。

(22H北西)

募集

読書会を開催します！

*日時 12月13日(木) 15:40~16:50

*テキスト『ぼくのたからもの』豊島ミホ著

(集英社2007年発行『東京・地震・たんぼ』より抜粋)

誰でも自由に参加できます。参加希望者は図書委員もしくは図書館まで。

おいしいお菓子とお茶を用意して待っています！



お知らせ

図書館移転作業のため、12月より図書の貸し出し期間は1週間となります。また2月より貸し出しはできませんので、注意して下さい。まだ返却していない本を持っている人は早急に図書館まで返却をお願いします。